

豊橋市立自然史博物館見学会報告

石川智美



バックヤード見学の様子



リニューアルした新生代の展示室

6月18日豊橋市自然史博物館の見学会を行いました。当博物館の周りには動植物園や遊園地があり、豊橋総合動植物公園“のんほいパーク”として市民に親しまれています。時おり小雨の降る中、12人が参加しました。園内には、親子連れの来園者がたくさんいました。

最初に安井学芸員にバックヤードを案内していただきました。岩石や液浸標本の収蔵庫・解剖室・標本作製室など見学しました。温度と湿度を保つため、内装が木製の収蔵庫がありました。出入口の扉も二重になっています。昆虫標本だけでなく、植物・貝類・剥製・骨格標本も保管されていました。どの収蔵庫・標本室も資料がいっぱいで、未登録の資料が廊下に並べてありました。どの博物館も収蔵庫の確保に困っているようです。

館内は企画展示室を含め、大きく6つの展示室に分けられます。古生代・中生代・新生代室のリニューアルが終了しました。古生代展示室は、地球の誕生から約2億5千万年までの生物進化を紹介しています。低い位置に子供の目の高さに合わせた展示がありました。扉を開ける・ハンドルを回す物が多く、クイズやゲームもありました。実物の化石に触ることができます。高い位置には進化の系統図など本格的な内容の展示になっていました。展示物が出来上がるまでを紹介した展示が面白かったです。中生代展示室は、主に恐竜時代の紹介で、中国雲南省で発見されたユアンモウサウルスなどの全身骨格を間近で見ることができます。子供たちが大きな歓声を上げながら見ていました。恐竜の卵や歯・アンモナイトなどの実物化石も多く展示さ



館内の中央のエドモントサウルス

れています。新生代展示室は、約6千5百万年前から現代に至るまでの時代を紹介していて、リニューアル前より明るく見やすくなりました。(旧展示室の約5倍、624点を展示)ケナガマンモス・シンクジラなどの全身骨格、最新技術を用いた映像があり、動物園に飼育されているゾウやサイに関連した展示もありました。2階の郷土の自然展示室では、愛知県の自然とその研究史が紹介されています。愛知県の地質・動物の剥製標本・三河湾などに生息している魚や貝の標本・干潟のジオラマなどがありました。館内の中央に博物館設立のきっかけとなったエドモントサウルスの全身骨格があり、子供たちに人気でした。

館内を見学中、ボランティアガイドツアーを見かけました。土日に無料でボランティアによる、常設展の解説を行っているそうです。多くのボランティアが、標本作製やイベントにも関わっているそうです。今、博物館にとってボランティアの協力は不可欠なのだと思います。